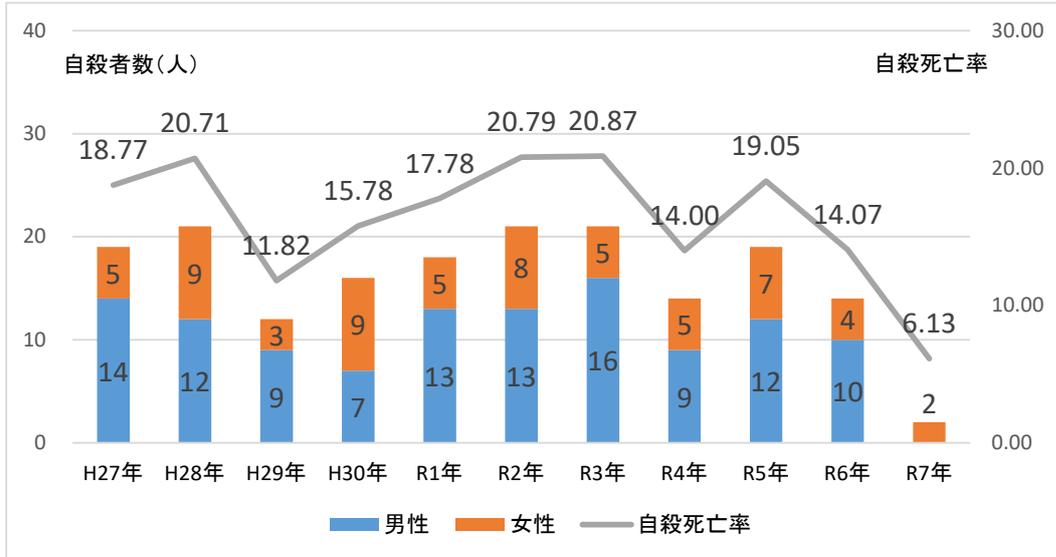


坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

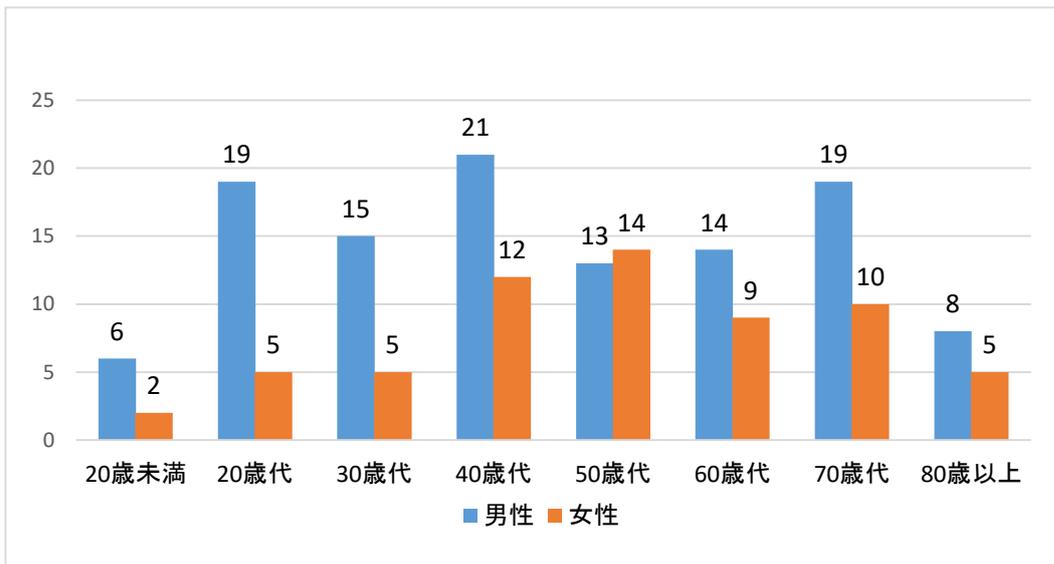
【図1】坂戸市における自殺者数の推移



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成27年から令和7年の本市における自殺者数の推移である。
自殺死亡率は令和6年は14.07%となっており、令和5年より4.98ポイント減少している。性別では平成30年を除き、男性の自殺者が女性より多い傾向にある。
※令和7年の自殺死亡率は、5月までの実数に基づく年間推計値

【図2】坂戸市における性別・年代別自殺者数(H27-R7)



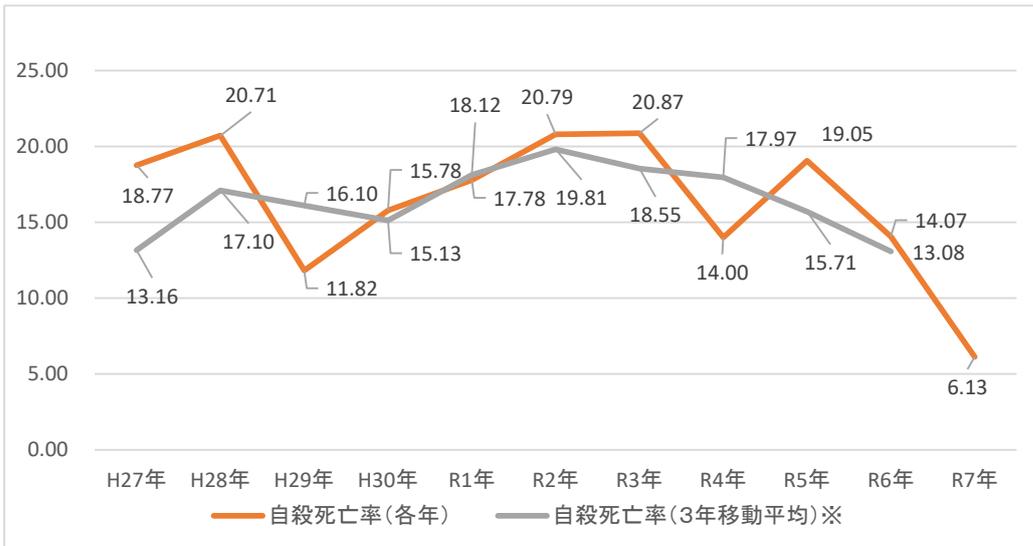
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成27年から令和7年の本市における性別・年齢別の自殺者数である。
男性の年齢別自殺者は、40歳代が最も多く、次いで20歳代と70歳代が同数が多い。
女性の年齢別自殺者は、50歳代が最も多く、次いで40歳代、70歳代の順に多い。

坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

【図3】 坂戸市における各年の自殺死亡率と3年移動平均の自殺死亡率の比較



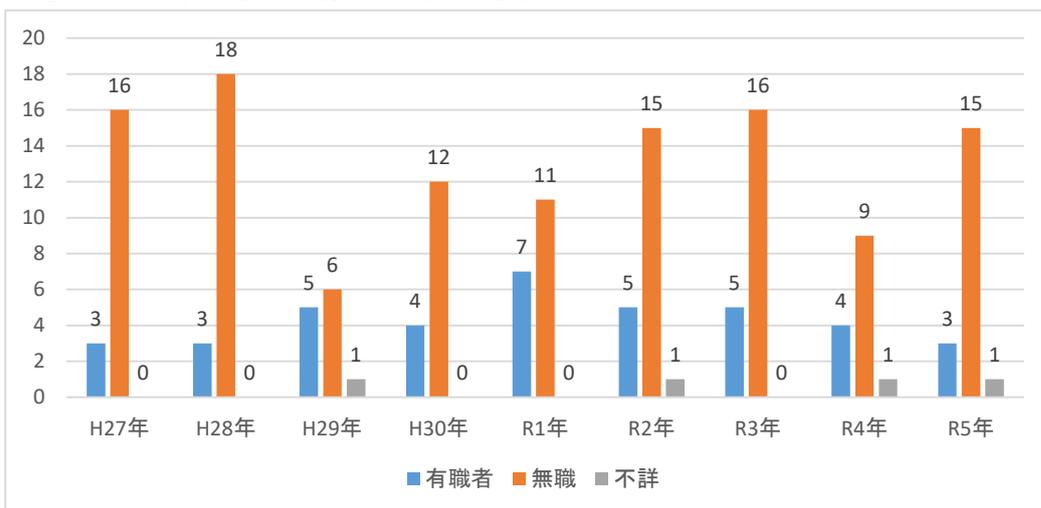
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成27年から令和7年の自殺死亡率がオレンジ色の折れ線グラフであり、令和4年と比べ、令和5年は5.05ポイント、令和6年は0.07ポイント増加している。またグレーの折れ線が3年移動平均の自殺死亡率であり、令和6年の3年移動平均の自殺死亡率は、令和5年より2.63ポイント減少している。

※X年の自殺死亡率の移動平均値は、X-1年、X年、X+1年の自殺死亡率の平均値

※令和7年の自殺死亡率は、5月までの年間推計値

【図4】 坂戸市における職業別自殺者数の推移



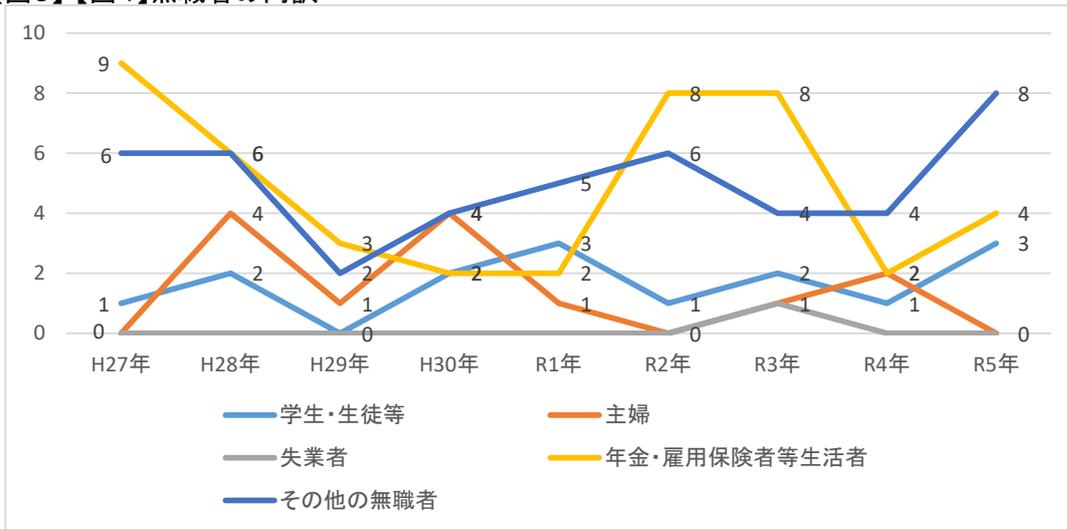
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

平成27年から令和5年までの職業別自殺者数の推移である。どの年においても、無職の自殺者数がもっとも多い。

坂戸市の自殺者数等の状況

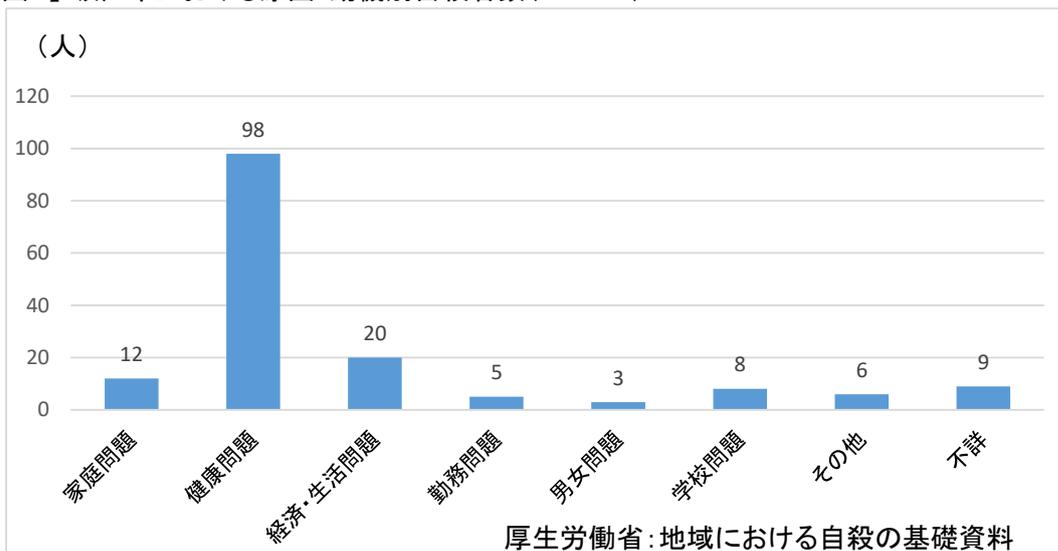
【資料1】

【図5】【図4】無職者の内訳



資料:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

【図6】坂戸市における原因・動機別自殺者数(H27-R5)



平成27年から令和5年の原因・動機別自殺者数としては健康問題が最も多く、次いで経済・生活問題、家庭問題となっている。

坂戸市の自殺者数等の状況

【資料1】

【表1】地域の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、2018年～2022年合計）

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性60歳以上無職同居	11	11.80%	27.2	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ) +身体疾患→自殺
2位:女性40～59歳無職同居	9	9.70%	29.4	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
3位:男性20～39歳無職同居	8	8.60%	90.3	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の 不和→孤立→自殺/②【20代学生】就職失敗 →将来悲観→うつ状態→自殺
4位:女性60歳以上無職同居	7	7.50%	11.4	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位:男性40～59歳無職独居	6	6.50%	321	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺

出典:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」(2024)